

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (令和6年 3月12日)	総合評価 (令和6年3月21日)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めることを目指した不断の授業改善の実施等、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動の充実	①70分授業で蓄積した「主体的・協同的な学習」の取組を50分授業に生かし、授業時数を確保するとともに質の高い授業を行う。 ①新しい学習指導要領をテーマに研究授業を行い、授業改善を目指す。  ②SSH事業の高大接続を充実させ、課題研究や国際理解教育を通じて、生徒の探究力を育成する。	①時間割を工夫し、50分と100分の授業を活用し、基礎学力の定着と思考力・探究力の育成の両立を図る。  ①今年度の本校の教育課題を踏まえた授業改善テーマを設定し、全教科で授業研究・改善を行う。  ②大学の研究室との連携やTAの活用をより発展的に活用し、アドバンストコースを充実させ、SS課題探究の研究テーマの改善を行う。	①50分を基本として授業時間で授業内容を工夫し、生徒の基礎学力や探究力を育成することができたか。  ①研究授業のテーマは本校の教育課題を踏まえたものであったか。各教科・科目で適正な単元と指導の計画を策定できたか。  ②アドバンストコースや研究インターンシップを通じてSS課題探究の研究テーマの改善ができたか。	①50分授業において「主体的・協同的な学習」を取り入れ、生徒の基礎学力や探究力を育成した。  ①「深い学びの実現に向けた授業実践」をテーマに、全教科で年間を通じた授業改善を行った。  ②大学研究室接続やTA支援を行い、高大接続を進めた。SS課題探究の研究テーマの改善ができた。	①大学等とも協力しながら、引き続き50分授業における探究的な学びを推し進めていく。 ①一層の授業改善のため、授業改善テーマを検討し、単元の指導と評価の計画を策定していく。  ②大学等との接続を拡充し、科学的探究力と国際性を備えた科学技術人材の育成を進める。	①生徒自身が学力向上を実感し、更なる学習意欲に繋がるよう、取り組んでいただきたい。 ①主体的・協同的な学習が、個別最適な学びにつながるものと思う。 ①授業評価アンケートの取り方や解析を工夫して教科指導に反映してほしい。 ②大学院生等との交流は、学生にとってプラス面が多いと感じる。	①50分を基本として授業内容を工夫し、生徒の基礎学力や探究力を育成することができた。  ②大学研究室接続やTA支援を行い、高大接続を進めることができた。	①授業評価アンケートの取り方や解析を工夫し、授業の課題を抽出することで、指導と評価の一体化の研究を進め、更なる授業改善を進めていく。  ②引き続き大学等との接続を拡充し、科学的探究力と国際性を備えた科学技術人材の育成を進める。
2	生徒指導・ 支援	○校訓「礼節・信義・根性」、モットー「文武両道・切磋琢磨」を基盤とするバランスの取れた教育活動の展開を通して、獲得した知識・技能を活用し、多様な人々と協働的に活動し、責任を持って社会に関わろうとする人材の育成	①KSCの取組を改善し、生徒の主体的な活動を支援・評価することで、リーダーとしての達成感を醸成する。  ①行事や部活動を通して生徒の責任感・社会性を育む。  ②SCやSSWと連携し、ケアの必要な生徒に対し組織的な支援と教育相談体制を構築する。	①KSCの宿泊日数や内容を見直し、3年間の生徒の成長を見据えたプログラムを構築する。  ①生徒たちが主体的に行事や部活動で活躍し、自分たちで課題を解決する体制を作れるよう支援する。  ②SC及びSSWと毎週情報を交換し、生徒の状況を速やかに把握・共有することでケアの必要な生徒への教育相談体制を構築する。	①KSCのプログラム内容を検討し、改善することができたか。生徒たちが主体的に活動し、リーダーとしての達成感を醸成できたか。  ①生徒たちが主体的に行事や部活動の活動ができる支援体制を構築できたか。  ②教育相談コーディネーターが中心となり、SC、SSW、学年、グループと情報を共有し、ケアの必要な生徒に対して支援できる体制を構築できたか。	①KSCの目的や内容を整理し、生徒の主体的活動を取り入れ、リーダーとしての達成感を醸成した。  ①SSCの生徒を中心に体育祭及び文化祭を運営し、生徒たちの主体性と協調性・社会性を育む体制を構築することができた。  ②子どもサポートドッグの導入によりケアが必要な生徒を把握し、SCやSSWと連携しチームで支援することができた。	①KSCの在り方を整理し、来年度に向けて効果的な実施を目指し、計画を進める。 ①成績処理の日程を7月に移動したことにより、文化祭業務と重複しなくなり、文化祭指導に注力できるようになった。 ②子どもサポートドッグの運用についてSC、SSWとの連携強化をより図っていく。	①宿泊研修は、多くの生徒にとって距離を縮める良い機会である反面、どうしても乗り遅れてしまう生徒もいると想像する。そうした生徒に目を配る対応をお願いしたい。 ①生徒の主体的な取組、成功体験や失敗から学ぶ機会を持つことはとても重要だと思う。 ②引き続き、高校生活に悩みをもつ生徒が「気軽に」相談できる様々なサポート体制の確保をお願いする。	①来年度に向けてKSCの目的と取組を見直すことができた。 ①行事における生徒たちの主体性と協調性・社会性を育む体制を構築することができた。 ②生徒をチームで支援する体制はできたが、サポート体制の充実が必要である。	①学校行事における指導をさらに工夫し、生徒の主体的な取組から、リーダーの育成や成功体験や失敗から学ぶ機会を作りだすような仕掛けを考え取り入れていく。  ②子どもサポートドッグの活用を進め、支援が必要な生徒を確実に把握できるようにしていく。
3	進路指導・ 支援	○大学やその後につながる学びの継続性と、社会で求められる資質・能力を意識した進路設計を指導し、主体的で、継続的・計画的に努力する力の育成	①SSHの各種事業や課題探究、高大連携講座を活用し、理系人材の育成を図る。  ①SSHの各種事業や高大連携講座を生徒に提供し、理系進学への意識付けをするとともに、課題探究を活用した総合型選抜等の進学指導を行う。	①生徒のSSH各種事業への参加希望が増えたか。理系への進学志望者や課題探究を活用した進学実績を残すことができたか。  ①国公立理系を志望する生徒は増加した。  ①課題研究を活用した進学実績が伸びていない。課題探究の成果を活用した総合型選抜等の方式による大学受験を伝えていく必要がある。	①探究学習で得た力を生徒がメタ認知することで、進路選択等にも役立つ。生徒が成長したことが分かるような評価を検討されてはいかかか。	①課題探究を活用した進学実績が伸びていない。 ②難関大学・国公立大学の合格生徒数は伸びた。	①1・2年生のうちから課題探究の成果を活用した総合型選抜等の方式による大学受験について情報提供するとともに、支援体制を確立する。			

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		校内評価 (令和6年 3月12日)	総合評価(令和5年3月21日)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	○大学やその後につながる学びの継続性と、社会で求められる資質・能力を意識した進路設計を指導し、主体的で、継続的・計画的に努力する力の育成	②日頃からの授業への取組が大学での学びにつながる意識を持たせ、受験に関する情報等を提供することにより個々の目標を明確にさせ、難関大学・国公立大学合格者数を増やす。	②計画的かつ有効的に模擬試験を実施し、結果分析をグループ内でまとめ、職員全体に情報の提供をすることで教員の進路指導力の構築を図る。 ②年に2回以上の生徒への進路集会に加え、保護者への進路説明会を開催し、生徒・保護者へ適切な情報提供や助言を行い、進路実現に向けての体制を構築する。 ②インターンシップやキャリアパスポートの活用を活用し、生徒が自らの進路について考える機会を創出する。	②難関大学・国公立大学の合格生徒数が前年度より増えたか。 ②生徒向け進路集会及び保護者向け進路説明会を開催し、大学受験に向けた情報を適切に提供することができたか。 ②インターンシップの参加者をサポートできたか。 ②キャリアパスポートを活用することができたか。	②共通テストで8割を超える生徒の数が増えた。推薦型の受験で上智大や広島大の合格が出ている。 ②数年ぶりに保護者対象の進路説明会を実施するなど本校の現状の共通認識を持ち、生徒と保護者へ進路指導を行うことができた。 ②昨年と同様でインターンシップの参加が少なく、今回は事業所の関係で実施できなかった。 ②本校の現状とキャリアパスポートの実態に乖離があり十分な活用ができていない。	②現2年生以降は新教育課程変更に伴う情報等を提示し、指導等をより一層充実させる。 ②グループ内で研修会を実施するだけでなく職員全体に本校の現状を認識し共有できる研修会を実施したい。 ②本校独自の事業所の開拓を行いたい。 ②LHR等の年間計画の中にキャリア形成を考える時間を組み入れたい。	①総合選抜型入試への対応を強化すべきと考える。 ②生徒が自分の良さを発見し、また将来の目標を持ち、進路を目指す取組を一層すすめていただきたい。 ②保護者対象説明会について、欠席保護者が情報を得られる工夫が必要である。 ②インターンシップとキャリアパスポートについては、県相のビジョンと合わないのであれば、計画から外す検討もあってよいのではと考える。	②保護者対象進路説明会を実施し、生徒だけでなく保護者へも情報提供を行うことができた。 ②本校の現状とキャリアパスポートの実態に乖離があり十分な活用ができていない。	②説明会に欠席した保護者向けに動画配信等、情報提供を行う工夫を検討していく。 ②生徒指導要録記載事項調査時にキャリアパスポートを活用するなど、キャリアパスポートの活用方法を検討する。
4	地域等との協働	○地域から期待され信頼される進学校として、地域のニーズに応え地域社会に責任を持って進んで関わろうとする人間の育成を目指した、連携・協働による教育活動の推進	①学校運営協議会制度を活用し、学校の教育目標等を共有し、指導・助言をいただくことで自校の教育活動の改善に繋げていく。 ②学校説明会やHPによる情報発信、地域貢献活動を通じて、地域のニーズを意識し、開かれた学校づくりに取り組む。	①学校運営協議会を計画的に開催し、本校の教育活動への意見を集約し、改善につなげる。 ②学校説明会やHPを充実させ、本校の特色を積極的に発信する。 ②地域貢献活動等を通じて地域との交流を図る。	①学校運営協議会を適切に開催し、教育活動の改善につなげることができたか。 ②学校説明会を適切に開催できたか。HPによる情報発信を積極的に行うことができたか。 ②地域貢献活動等を通じて地域と交流する機会を作れたか。	①3回実施し貴重な意見を聴取できた。うち9月は文化祭に合わせて実施し、生徒の実際の活動を見ていただいた。 ②HPをより活発に活用するとともに、より生徒の活動が分かりやすいよう学校説明会を見直した。 ②部活動を主体とした地域との交流を行い、地域貢献活動において近隣の清掃活動を行うことができた。	①授業を見ていただく機会を作ったほうがよい。 ②HPの情報更新をより早く実施できるよう、速やかな情報集約と発信を行う。 ②地域との交流を引き続き支援していきたい。	②HPで情報発信した回数を具体的に記載すべき。 ②生徒の興味を引き出すような地域活動があればよい。 ②部活動を中心とした地域との交流の機会を持つことは、生徒が将来的に地域に目を向けるきっかけになる。 ②特に幼稚園、保育園や高齢者層は、県相生との交流を望んでいる。	②学校説明会は生徒を前面に出して行うなど工夫し、本校の特色を発信できた。 ②HP発信も行ったが、情報更新はもっと行うべきである。 ②部活動を主体とした地域との交流を行った。	②ホームページの情報更新をより早く実施できるよう、速やかな情報集約と発信を行っていく。 ②アンケートを依頼するなど、近隣施設等のニーズを把握し、実施可能な地域貢献活動を検討していく。
5	学校管理 学校運営	○生徒の多様な活動を引き出しつつ、安全安心に生活するための学習環境整備や、生徒と向き合う時間の確保や事故の未然防止のための働き方改革に向けた、組織的で機動的な学校運営。	①生徒が安心して活動できる環境と危険を防ぐための仕組みを構築する。 ①防災教育により学校全体の防災意識の向上を図る。 ②教員の働き方改革を推進し、教員が生徒と向き合う時間を確保し、生徒の事故を未然に防ぐ体制を構築する。	①危機管理マニュアルを改訂し、職員間で共有する。 ①防災訓練等を通じて生徒が自ら命を守るよう防災教育を実施する。 ②教員の働き方への意識改革を促し、年間行事などを精査し、教職員が働きやすい環境作りに努める。	①国や県の示すガイドラインに従って危機管理マニュアルの改訂ができたか。 ①避難訓練やDIGを通じて生徒が主体的に自らの命を守る防災意識を高めることができたか。 ②行事等の精査を通じ、教員の負担感を軽減することができたか。	①ガイドラインに沿うよう危機管理マニュアルを改定した。 ①生徒が自ら考え身を守ることでできるよう机上訓練・避難訓練を取り混ぜて防災訓練を実施した。 ②コロナ明け、行事を元に戻す過程で精査を行おうとしたが、慣れていない生徒の指導で負担感は増大してしまった。	①施設改修・耐震補強工事によって変わる避難経路を適切に反映させる。 ①訓練内容を更新し、次年度も生徒が飽きなく自ら考える訓練とする。 ②教育として行事は重要なことから、削減ではなく中身の精選を引き続き進めていく。	①学校が補修工事等によって生徒が安全、安心に生活できる空間になることはとても良い。 ②教員の働き方改革を強力に推進し、先生方のワークライフバランスも考慮に入れ、教職員皆さんの更なるモチベーションの向上にご尽力いただきたい。	①生徒が安心して活動できる環境づくりに努めた。 ②教員の負担感は依然として強い。	①生徒が安心して活動できる環境づくりと危険を防ぐための施設整備を引き続き進めていく。 ②業務アシスタントの更なる活用など、事務的作業を軽減していく。